

報道関係者各位

2026年3月3日 配信 No.2025-43
立命館アジア太平洋大学 (APU)

APUとDivers Projectが「D&I社会創造ワークショップ」開催 車いすでのまち歩き×イベント立案プレゼンテーション

立命館アジア太平洋大学（大分県別府市、学長：米山裕、APU）と、バリアフリールート共有アプリの運営等を行う任意団体Divers Project（福岡県福岡市、代表：内山大輔）は、2026年3月28日（土）と29日（日）の2日間、APU生を対象とした「D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）社会創造ワークショップ」を別府市で開催します。2日間にわたるワークショップでは、車いすでのまち歩きフィールドワークや審査付きイベント立案プレゼンテーション、専門家によるレクチャー等を通し、参加者のインクルーシブ社会への理解促進を目指します。Divers Projectは、これまでも街歩き等のイベントを開催してきましたが、体験を生かしたイベント立案プレゼンテーションの開催は、今回が初めてです。

ワークショップには、Divers Projectに加え、超高齢社会における移動困難者の社会参加を目指す研究に取り組む高取千佳東京大学大学院准教授や、障がいのあるかたの支援に取り組む「自立支援センターおおいた」と「太陽の家」が講師や審査員として参加し、専門家や当事者の立場から参加者の理解を促します。

【プログラムの見どころ】

- ・課題発見から、企画・提案まで行う2日間
車いすでのまち歩きにとどまらない、イベント企画コンペの同時開催
- ・専門家、当事者と、国内・国際学生が共に考える“共創型プログラム”



【開催概要】

日程：2026年3月28日（土）11:00～17:30
APハウス4（〒874-0011 大分県別府市京町11-8 APU PLAZA OITA）、別府市街
2026年3月29日（日）11:00～16:30
立命館アジア太平洋大学 グリーンcommons（J棟）J202

開催言語：日本語、英語
参加者定員：APU生 15名

【プログラムの流れ】

1日目（3月28日）

- 11:00 APハウス4集合。Divers Project 内山氏より、Divers Mapの概要、団体目的、Map、歩きやすい道の定義等の説明。高取氏より、別府の街と障がい者について、まち歩きにおいて観察すべき点のレクチャー。
- 11:40 グループに分かれ、車いす、ユニバーサル疑似体験セットの説明と練習。
- 12:00 別府市街のゴール地点に向けてまち歩きスタート。昼食を経て、ハウス4への復路にてまち歩き再開。
- 14:40 ハウス4にてワークショップ。グループごとに、街あるきでの気づきを地図や模造紙、付箋でまとめる。
- 16:00 SOSシステム等に関するレクチャー。
- 16:30 参加者、プロジェクトメンバーを含めたパネルディスカッション、質疑応答。
- 17:30 解散

2日目 (3月29日)

- 11:00 APUキャンパスにて、グループごとに「インクルーシブ街づくり」をテーマにイベント立案。
- 11:45 中間発表、昼休憩。
- 13:20 イベント立案のグループワークの続き。
- 14:30 グループごとに最終プレゼンテーション。
- 16:10 審査員より講評、受賞チームの発表。
- 16:30 終了

【主催】

■ 立命館アジア太平洋大学 (APU)

2000年に「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念に掲げ、大分県別府市に開学した私立大学。118ヵ国・地域(2025年11月1日時点)出身の外国人留学生が学生の半数を占め、THE日本大学ランキング2025では「国際性」全国2位、「教育充実度」全国3位の評価を受けている。多文化多国籍環境のもとで、協働学習や日英2言語での教育を提供し、グローバル教育をけん引している。

■ Divers Project

「すべての人が安心して外出できる社会を実現する」「バリアフリールートを共有し、誰もが自由に街を楽しめる環境をつくる」をビジョンに、2022年7月に福岡市で設立。代表は内山大輔。車いす利用者やベビーカー利用者など向けに、バリアフリールート共有アプリ「DiversMap」の運営および、関連イベントを開催している。

【プロジェクトメンバー】

■ 高取 千佳 氏 (東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授)

現在、SOLVE for SDGs (SDGs達成に向けた共創的研究開発プログラム) 令和7年度「ソリューション創出フェーズ」に採択され、共同実施者の内山氏とともに、超高齢社会における移動困難者の回遊・交流・社会参加を実現する「エイジフリー・ツーリズムDXプラットフォーム」の研究に取り組んでいる。本研究は別府市でも地域展開が進められており、今回は、非常時における移動困難者とサポーターをつなぐ「バリアフリーSOSシステム」に関する示唆を得ることを目的に、本プロジェクトに参加。

■ 自立支援センターおおいた

障がいのある方が地域の中で自立した生活を実現できるよう、生活支援や社会参加の促進に2002年より取り組む特定非営利活動法人。別府市において観光まち歩きイベントの実施経験を有しており、本イベントにおいても協力団体として参画し、当事者視点や地域に根ざした知見を提供している。

■ 太陽の家

1965年の創立以来、障がいのある人の働く場づくりに取り組む社会福祉法人。APUとの連携協定を基に、本イベントでは、パネルディスカッションおよびイベント立案コンペにおいて審査員として参画している。当事者や支援の現場に深く関わってきた立場から、企画が現場の実情やニーズと乖離していないかを検証する役割を担っている。